文化薫道

～文化の風が吹くまち ちくしの～

問い合わせ先／文化情報発信課（歴史博物館内）☎(921)8419

経塚に込めたもの

―其の二十七―

「出てきた経筒は、はじめて外気に触れ、みずみずしい青銅色に輝き、山の湿気に覆われて何とも言えない光沢を放っていました」

武蔵寺前住職の故井上亮範さんは、驚きをもってこのように述べています。

昭和43年、武蔵寺境内に経塚群があるということがわかり、その後の発掘調査によって、11世紀末頃から12世紀中頃の間に造られたと考えられる11基の経塚が見つかりました。出土品は北部九州の基本資料とされ、その学術的価値の高さから県有形文化財に指定されています。

4号経塚経筒出土状態

経塚とは、仏教の経典を地中に埋めたもののことで、経典を納める容器を経筒といいます。

平安時代の終わりごろ、末法（釈迦（しゃか）の教えが伝わらなくなる時代）に突入したという説が人々の間で流れ、釈迦の教えである経典を永遠に保存するために経塚が造られました。その後、時代の流れとともに、極楽への生まれ変わりや現世での幸福を願うもの、死者を供養するためのものなど、目的は多様になっていきます。

武蔵寺4号経塚では、底に針書で「母」「入道」と刻書された経筒が見つかっています。亡き母の冥福を祈ってのことなのでしょうか。また、11号経塚では、経筒のふたの上に、毛髪の束ともみの粒がのっていました。もみは五穀豊穣（ほうじょう）を祈ったもの、毛髪の束は、自分の身体の一部をささげることで仏さまに守られ、清浄な所にいたいという願いを込めたものでしょうか。

武蔵寺経塚群出土品（前列が経筒。後列が経筒を納める外容器）

これら出土品からは、仏さまによる救済を強く願う人々の思いを感じることができます。

今年は、武蔵寺経塚群の発掘調査から50年という節目の年です。歴史博物館では、4月21日から開催する春季企画展「武蔵寺と二日市展」において、経塚に焦点を当てた展示を行う予定です。この機会にぜひご観覧ください。

発行／筑紫野市　編集／秘書広報課
〒818-8686 福岡県筑紫野市二日市西一丁目1番1号 ☎092(923)1111 FAX092(923)5391
印刷／久野印刷株式会社
発行部数／41,500部